福井新聞　2013年6月7日(金)10面に掲載

福井新聞

県産スギで地盤改良

ABコーポレーション（福井）

間伐材活用、宅地向け工法

基礎工事のABコーポレーション（本社福井市四十谷町、油屋敏行社長）は、県産スギの間伐材を宅地の地盤改良に使う工法を県内で展開する。県産材の活用を進められる上、二酸化炭素（CO_2）削減に貢献できるメリットがあり、同社は本年度25棟の施工を目指す。

この工法は、住宅部材メーカーの兼松日産農林（本社東京）の技術提供を受け、美山町森林組合と連携して行う。3日には、福井市左内町の工事現場で関連業者らを集め説明会を開いた。

この現場では、約110平方メートルの土地に直径14センチ、長さ6メートルに加工した美山地区のスギを48本打ち込むことで地盤を改良する。木には防腐加工や、アリの被害を防ぐ加工が施してあり、60年程度は耐久性に問題がないという。

地盤改良に県産材を使うと、国や県の木材活用に関する補助金の算定根拠に組み入れることができる。施工も簡単なことから工期も短縮可能。一般的な鉄くいよりも安価で、コンクリートくいと同程度の価格になる。また、一般的な住宅の場合、コンクリートくいと比べ、約15トンのCO_2削減になる。

この工法については、県内の産学官でつくる県木材利用研究会なども研究を進め、今年3月にマニュアルを策定。本年度以降、各種工事への広がりが期待されている。

同社は今後、設計事務所や工務店向けに売り込みを図るなど、この工法の浸透を考え。油屋社長は「間伐材を有効利用することで、森を守る手助けもしていきたい」と話している。

県産スギの間伐材を地盤改良に使う工法の施工現場＝福井市左内町